



王一だより

令和2年11月号
北区立王子第一小学校
校長 荒木 康子

教育目標 **な**仲良く助け合う子 **か**身体をきたえ元気な子 **よ**よく考え最後までやりぬく子 **し**親切で礼儀正しい子

ルールと制限 高度情報化社会を生き抜いていく子供たちのために

校長 荒木 康子

秋本番、何をするにもよい季節です。ミニ運動会「ぴかリンピック」が終わると、肌に触れる風もだんだんと冷たくなり、晩秋の気配を感じられるようになっていきます。

コロナ禍において学校行事に制限がかかり、学校教育目標の「よく考え最後までやりぬく子」の育成の場が少なくなっています。「ぴかリンピック」では、例年に比べて競技や演技の内容が縮小されましたが、どの学年の子供たちも短い練習時間の中で、精一杯、最後までやりぬきました。

しかし、個々に目を向けると、時代の流れなのか、我慢できない子供、すぐに諦めてしまう子供が増えてきているように感じます。近頃の子供たちの生活環境から、その原因の1つとして考えられるのがゲームです。大人でものめり込んでしまうほど今のゲームは飽きないように工夫されています。一度やり出すと、とめどなく続けてしまうという傾向があります。

特にネットゲームは、依存になりやすいので注意が必要です。その大きな理由は、ネットゲームに「終わり」がないからです。昔ながらのゲームは、課題をクリアしたら終わりになりますが、ネットゲームでは、定期的に新しいコースやアイテムが配信され、やることが尽きないため、飽きずにいつまでも続いてしまうのだそうです。この「終わりがない」というのは、インターネット自体の特徴でもあります。

また、ネットゲームは無料で始められますが、「ゲームを有利に進めたいと思ったとき」に買うアイテムが用意されているのが、最近のゲームの特徴だそうです。アイテムを買うのに必要なお金は、1回当たり数百円程度ですが、繰り返しているうちに感覚が麻痺してしまい、保護者の知らぬ間に気が付けば数十万円という大金を支払うことが実際起きています。幼稚園児が、ゲーム中にカードで、8万円ものアイテムを購入したという事例もあるそうです。

依存が進んでいくと、頭の中の大部分をゲームが占めてしまっているので、学習に集中できなかったり、学校に行くのが嫌になる状態にまでなったりします。ゲームをしていないといらいらしてくる、突発的に暴力的な行動をとってしまうなどの症状も出てきます。ゲームができていれば精神状態は安定するのですが、ゲームのできない要素があると精神状態は不安定になります。このような状態になると、本人が一番しんどいはずですが。

そうなる前に、周りの大人が子供の状態に気付いてあげて、少しずつゲームから離れることができるように、また、ゲームとうまく付き合っていくように環境を変えていってあげる必要があります。実際、休校中にゲームを介してのトラブルで、自らゲームをやめたお子さんもいます。

ゲーム障害(ゲーム症)というのは、2019年 WHO によって正式な病気と認定されたそうです。それだけ、今かかりやすく抜け出しにくい病気であるということを大人が認識し、子供の生活環境を整えていってあげないといけない時代なのではないかと感じます。

ぜひ、ご家庭でのお子さんの様子を見ていただき、事故やトラブルを防いでよりよい環境づくりのために、ルールや制限についてお子さんと話す機会をつくってください。

このよい季節、読書やスポーツなど、ゲームではないことにも関心をもつことができるよう取り組んでいきたいものです。

★「携帯電話やスマートフォンの使い方のルール」は、王子第一小学校ホームページに家庭掲示用を掲載しています。